

<b>災害環境研究プログラム 環境回復研究プログラム</b>
--------------------------------

<b>委員会の主要意見</b>
現状についての評価・質問等
<p>○放射性廃棄物処理に関する研究が順調に進められている。避難した住民の帰還に向けて、行政や社会に向けて正確な情報発信がなされていることを評価する。【年度】【見込み】</p> <p>○基礎研究としてのレベルは高いと評価するが、行政ニーズを考慮すると社会実装にむけた研究（費用対効果の評価も含め）のペースを上げるべきではないか。【年度】【見込み】</p>
今後への期待など
<p>○人間も含む生物にとって環境中で低線量放射能の影響が極めて低いと言えるかが一般国民の安心への関心事ではないでしょうか。今後の長期にわたる研究成果を期待する。【年度】</p> <p>○必ずしも論文＝社会貢献ではないので、蓄積された成果について、広く活用してもらうための整理や広報、連携した研究など、多様な取り組みを期待する。【年度】</p> <p>○福島事故後の放射性物質の動態は今福島でしか得られない貴重な記録です。将来起こらないとは言えない事故に備えて整理に工夫を凝らし記録を残していただきたい。政策的課題も多く残されており、今後とも積極的な情報発信を期待する。【見込み】</p> <p>○これらの成果をまとめて一般環境中の放射性物質の動態評価ができるように完成させることを期待する。これだけ積極的に被災地に寄り添った研究が実施されているので、安心・安全を伝えるためにも広報体制の強化も期待する。【年度】【見込み】</p>

<b>主要意見に対する国環研の考え方</b>
<p>① 汚染廃棄物処理研究を中心に研究成果やその発信について高く評価頂き有難うございます。今後もより一層の研究の充実化を図り、ご期待に沿えるよう鋭意努めます。</p> <p>② 社会実装に向けた研究のペースを上げるべきとのご指摘につきましては、その時々々のニーズに答えられるように行政ニーズを先取りした研究を心がけるとともに、将来の県外処分や本格的な地域復興に向けた少し先の未来を見据えた研究も進めてまいります。</p> <p>③ アカネズミのメスに繁殖影響が見られたのは2012年のみの一時的なものであると解釈していますが、人間とアカネズミの生活史の違いなどをしっかりと解釈しつつ、人を含む生物への低線量放射線影響の長期モニタリング体制を構築してまいります。</p> <p>④ 将来の備えとしての取組については、今回の事故対応で生じた課題を出来るだけ抽出し、その解決策を示す形で整理していきたいと考えております。また、研究成果等の情報発信については、多様な媒体を活用し取り組んでいく所存です。</p> <p>⑤ 本取組のみならず他機関の成果も反映しつつ、環境中の放射性物質の動態について包括的評価を行い得るよう努めます。また、戦略の見直し含め、広報体制についても強化を図っていく所存です。</p>